

小林貴子選

北海道一周同士缶ビール

(東京都中野区) 中村 忠男

さう言はず一度鯨を食べてみな

(奈良市) 上田 秋霜

大夕立美田くまなく打擲す

(柏市) 河西 和章

噴水や過去形のない潔さ

(新潟市) 野澤 千恵

見えぬもの見る闇の中薪能

(袋井市) 本多 りつ

スペインの古城に灼くる石畳

(三浦市) 秦 孝浩

万緑や濃いも薄いも一山に

(尾張旭市) 橋本 新一

芍薬にほろ酔ひの蟻二三匹

(小松市) 田中 言葉

六月は穴に似ており要注意

(岡山市) 別府 慶二

老後長しキャベツに放る塩こんぶ

(東京都新宿区) 各務 雅憲

【評】一句目、隣同士で話し始め、同じ志を実行中の人と知る、奇遇。二句目、食は文化なので、初めて食する時は勇気が必要だ。三句目「打擲」という強い言葉が響き、「美田」も効いている。四句目、今日の前にある水滴一つ一つが美しい。

長谷川耀選

フェルメールの青の世界よラムネ飲む

(三重県明和町) 奥井 佳子

宇宙までたつた百キロ雲の峰

(始良市) 井之川健児

念願の懶惰の老後行水す

(栃木県壬生町) あらゐひとし

アンドリュウ・ワイエスの空とこゝろてん

(横浜市) 菅谷 彩香

十葉に八重の花つく夜風かな

(本庄市) 佐野しげを

人恋うて解にまどふ海月かな

(境港市) 大谷 和三

友鮎の滾りに糸の張り新た

(静岡市) 松村 史基

麦の風少しく荒く入院す

(山梨県市川三郷町) 笠井 彰

芳ひの言葉とともに塩レモン

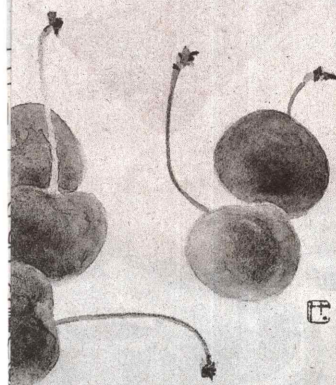
(つくば市) 小林 浦波

何人も胸中深く走馬灯

(岐阜県揖斐川町) 野原 武

【評】一席。とろりとまどろむフェルメール・ブルー。耳飾りの少女よ。二席。百キロは東京一熱海。すぐそこにある宇宙。三席。懶惰とは怠けること。暑い夏はこれにかぎる。十句目。心の奥で回りつづける走馬灯。気がついているかどうか。

俳壇



北村さゆり

うたをよむ 蟻と人間

雨の日々、濃密な木斛の花の香りが部屋を満たし、息苦しい。ウッドデッキに出ると、目の前に蟻の穴が二つ見える。春先の「蟻穴を出づ」のときから折に触

の未 大 小動